

# 平成19年度病害虫発生予察指導情報

## 対象病害虫：斑点米カメムシ類（No.4）

平成19年8月23日

鳥取県病害虫防除所

### 1 情報の内容

8月20～22日に行った巡回調査定点における乳熟～糊熟期の本田すくい取り調査の結果、斑点米カメムシ類の発生は平年並の発生であった。

**穂揃期～乳熟初期にかけて防除を行っていないほ場および周辺に発生源（イネ科雑草）の多いほ場では発生状況に注意し、要防除水準（捕虫網50回振りすくい取り調査で4頭以上）を超えている場合は防除を行ってください。**

### 2 発生状況

- (1) 8月22日現在、水田内では、アカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ等の発生が認められる。発生ほ場率は、35.8%（平年：42.1%）、捕虫網50回振りすくい取り平均虫数は、2.9頭（平年：3.2頭）、要防除水準（50回振り成幼虫数4頭以上）を超えているほ場率は、18.8%（平年：22.7%）で、平年並の発生であった。
- (2) カメムシ類の発生状況は、ほ場間差および地域間差が大きく、水田周辺に出穂したイネ科雑草が多いほ場および地域での発生が多い傾向である。
- (3) 向こう1ヶ月の気象によると、カメムシ類の本田への飛来、およびイネへの加害活動に好適な条件となっている。

### 3 防除上注意すべき事項

- (1) 8月上旬に出穂期を迎えたほ場（ひとめぼれ、コシヒカリ等）で、穂揃期～乳熟初期にかけて防除を行っていないほ場では、発生状況を確認し、要防除水準を超えている場合は直ちに防除を行う。  
また、防除を行ったほ場においても、周辺に発生源（イネ科雑草）の多い場合は、発生状況に注意し、要防除水準を超えている場合は防除を行う。
- (2) 現在、出穂期～穂揃い期を迎えているほ場（中生品種、遅植等）では、穂揃い期～乳熟初期の基本防除を徹底する。その後も発生が多い場合には、7～10日間隔で1～2回の追加防除を行う。  
また、出穂20日前頃に水田周辺のイネ科雑草地・畦畔などの草刈りを行っていない場合は、穂揃い期～乳熟初期に草刈りを行い、草刈り後直ちに防除する。
- (3) 水田内で穂をつけたヒエ類は、カメムシ類の発生を助長するので直ちに取り除く。